

第6回

東南アジア世界の形成

監修・講師
水島 司

学習のねらい

東南アジアは、大陸部と群島部とに大きく分かれ、それぞれ特徴のある自然環境と気候風土、そして文化をもっている。またインド、中国という大文明の間に位置し、大きな輸送力をもつ船によって、両文明間の海上交易の重要な中継拠点としても栄えた。今回は、さまざまな文明や宗教が伝えられるなかで独自の文明を築いてきた東南アジアの歴史の動きを、そこで取り引きされた有力な商品や大規模な宗教建造物に注目して見ていく。

- ・ <インド文明と中国文明の交差>
- ・ 扶南^{ふなん} オケオ遺跡 季節風（モンスーン）
- ・ <熱帯の資源と開発> モルッカ諸島 香辛料
- ・ <独自の文化形成>
- ・ マラッカ海峡 シュリーヴィジャヤ王国 シャイレンドラ朝
- ・ ボロブドゥール寺院 プランバナン寺院 ジャワ更紗^{さらさ} ワヤン（影絵）

■ ■ ■ インド文明と中国文明の交差 ■ ■ ■

東南アジアは、西はインド文明やさらには地中海世界にまでつながるインド洋と、東は中国文明とつながる南シナ海の中間の海域世界に位置し、古くから海上交易の中継点として栄えた。ベトナムのオケオ遺跡では、古代ローマからもたらされた金貨や後漢時代の銅鏡などが発見され、この地が古代の東西交易の重要な拠点だったことを示している。東南アジアはまた、各地の商人を引き寄せる魅力のある産物を生み出す地域でもあった。こうした商品は、季節風（モンスーン）を利用して船で運ばれ、活発な海上交易が展開した。

交易の発達には、単に商品や人の往来だけではなく、さまざまな宗教や思想、制度の行き来ももたらした。とりわけ重要であったのは、古代インドからもたらされた王権思想であり、東南アジア地域での国家形成が進んでいった。

■■■ 熱帯の資源と開発 ■■■

東南アジアは、雨季と乾季の差がはっきりしている熱帯モンスーン気候と、一年を通して雨の多い熱帯雨林気候でおおわれているだけでなく、高地と低地、海岸地域と内陸地域など多様な自然環境の中にある。それがもたらす豊かな植生のなかで、他の地域には見られない特産物が生み出されていた。

それらの特産物の中には貴重な商品価値をもつものがあり、胡椒や、**モルッカ諸島**でのみ生産されたクローブなどの**香辛料**は世界商品となり、それを求めて、アジア地域だけではなく遠くヨーロッパからも商人たちが訪れた。

■■■ 独自の文化形成 ■■■

マラッカ海峡を抜ける海上交易ルートが発達した7世紀以降、群島部に強大な国家が現れた。マラッカ海峡を挟んで成立した**シュリーヴィジャヤ王国**では、インドから伝わった大乘仏教が栄えた。インドからは、仏教だけではなく、ヒンドゥー教も東南アジアに伝えられ、数多くの巨大な宗教建築が建造された。インドネシアの**ボロブドゥール寺院**や**ブランバナン寺院**などの遺跡は、これらの宗教の影響を受けて建造されたものであるが、そうした外来の影響だけではなく、土地固有の世界観が色濃く反映されており、東南アジア世界が、外からの影響を受けつつも、独自の文化を形成していったことが示されている。同じことは、ラーマヤナに基づく物語やそれを題材にした**ワヤン（影絵）**や舞踊などの例でも知ることができる。

考えてみよう 調べてみよう

- 東南アジアの各地に分布する宗教遺跡が、いつごろ、どのような王権によって建設されたのか、またそれらの遺跡にはどのような特徴があるのかを調べてみよう。
- 現在、東南アジア各地から日本を始め世界に輸出されている作物にはどのようなものがあるか、その取り引きはいつごろどのように展開していったのかを調べてみよう。
- 東南アジア諸国の首都が、どの時代に生まれたのか調べてみよう。